

イギリスの最低賃金制度

遠藤 公嗣

イギリス(連合王国)の最低賃金法は1998年に初めて制定され、この法にもとづいて1999年に初めて最低賃金額が定められました。現在まで、毎年、最低賃金額を引き上げる改定が続いています。イギリスの最低賃金は、全国一律の最低賃金額です。イギリスは形式的には国家連合体であって、そのために地方分権の制度と意識が日本よりはるかに強いのですが、にもかかわらず最低賃金額は全国一律です。その他の特徴を、日本の最低賃金との違いに注目して紹介しましょう。

年齢別の最低賃金

最低賃金額は、主に年齢別で定められます。表1は2018年4月1日からの1年間の額と、その前の1年間の額です。1999年の最初の「全国最低賃金」は、21歳以上の3・60英ポンドと、20歳以下の3・00英ポンドの2本立てでした。1999年から現在まで

の約20年間で、21歳以上最低賃金は2・175倍(25歳以上)ないし2・05倍(24歳以下)に、20歳以下の最低賃金は1・97倍に引き上げられたこととなります。

また、年齢別の区分種類は最初の2本立てから現在は5本立てと、次第に増加してきました。25歳以上を「全国生活賃金」と名づけて区分を新設したのは、2016年からです。「見習い」は雇い主や先輩のそばで働きながら技能を身につける労働者で、この区分を新設したのは2010年です。

低賃金委員会の勧告

常設の低賃金委員会があります。この委員会が、担当大臣から諮問を受けて最低賃金改定額を大臣に勧告し、大臣が決定します。低賃金委員会は労・使・中立の委員(3年任期、定員9名)で構成されます。毎年、改定額の諮問と勧告があります。これまでのところ、委員間の意見対立で委員会勧告を出すことができなかった

「金」額は2020年に所得中央値の60%の額となるこ
 詳細な記述があります。委員会として、「全国生活賃
 金」額は2020年に所得中央値の60%の額となるこ

表1 イギリスの最低賃金額

	全国生活賃金	全国最低賃金			
	25歳以上	24-21歳	20-18歳	17-16歳	見習い
2018年4月1日～ 2019年3月31日	7.83 (1174.5円)	7.38	5.90	4.20 (630円)	3.70
2017年4月1日～ 2018年3月31日	7.50 (1125円)	7.05	5.60	4.05 (607.5円)	3.05

注) 英ポンド、() 内は1英ポンド150円で換算の円額。

出所) <https://www.gov.uk/government/organisations/low-pay-commission> (2018年6月20日閲覧)。

ったことはありません。
 また通例では、委員会勧
 告に従って大臣は改定額
 を決定します。ただし2
 014年に、「見習い」に
 ついて、委員会勧告以上
 の額を大臣が決定したこ
 とがあります。

低賃金委員会の年次報告書

低賃金委員会は、毎年、
 年次報告書を公刊します。
 最低賃金改定額の勧告は、
 この報告書のなかで述べ
 られます。最近刊は20
 17年11月で、「全国生

とを政策目標とすること、新設による失業増加の懸念
 も伝えられたものの、目標実現はイギリスの経済成長
 の状況次第であり、目標実現の前倒しも先送りもある
 こと、他の年齢区分の「全国最低賃金」への影響を慎
 重に見極めること、などの記述があります。